

お知らせ

2022年2月18日
東北電力株式会社

プルトニウムの利用計画について

当社は、日本原燃株式会社の六ヶ所再処理工場の操業計画を踏まえ、2022年度から2024年度までの3年間におけるプルトニウム利用計画^{※1}を策定いたしました。

六ヶ所再処理工場の操業開始後は、再処理によりプルトニウムが回収される見込みであり、当社ではその利用計画を明確にし、透明性を確保する観点から、プルトニウム利用計画を策定し公表するものです。

なお、電気事業連合会においても、プルトニウム利用の促進・保有量の削減を進めるための新たな取り組み^{※2}も含めた計画をとりまとめ、本日、公表しています。

<当社のプルトニウム利用計画>

1. プルトニウム所有量
 - ・約0.7トンPut（2021年度末予想）
2. 利用場所
 - ・女川原子力発電所3号機
3. 利用量
 - ・別紙「プルトニウム利用計画（2022年2月18日電気事業連合会）」を参照
4. 年間利用目安量
 - ・約0.4トンPut／年
（女川原子力発電所3号機に装荷するMOX燃料に含まれるプルトニウムの1年あたりに換算した量）
5. 現在貯蔵する使用済燃料の量（参考）
 - ・約680トンU（2020年度末実績）
（女川原子力発電所、東通原子力発電所および日本原燃に貯蔵している使用済燃料の量）

以上

- ※1 原子力委員会が決定した「我が国におけるプルトニウム利用の基本的な考え方について」（2003年8月5日、2018年7月31日）を踏まえ、原子力事業者が取りまとめ、公表するもの。
- ※2 今回、プルトニウム利用の促進・保有量の削減を進めるため、新たな事業者間の連携・協力として、各事業者が英国と仏国それぞれに保有するプルトニウムについて、事業者間で交換した上で、MOX燃料工場が稼働している仏国でMOX燃料に加工し、国内のプルサーマル炉で消費する計画としている。

（別紙）プルトニウム利用計画（2022年2月18日電気事業連合会）